

入選

水の歴史と思いを受け継ぐ

私たちの生活は、綺麗な水によってできています。炊事や洗濯などの家事や工業、農業においても、生きていく上で欠かせない存在です。また、人間だけでなく全ての生命を育む重要なものです。よくニュースで、外国の水は有害な物質がたくさん混ざり、汚れているのを見かけます。そこで私は、いつも使っている水道から汚染水が出てくるのを想像してみました。その水を飲み、洗濯に使う。今では考えられませんが、調べてみると日本でも水質汚濁に関する歴史があったのです。

一九五十年から七十年代にかけて日本は高度経済成長という時代にありました。経済や産業が急速に発展する中で工場から出る排水や家庭から出る生活排水、大量のごみなどで川や海などの水質悪化が大きな問題になったそうです。その汚染水で育った海

産物などは日本人の体をむしばみ、今も健康被害に苦しんでいる方がいるそうです。公害や水質汚濁による影響を受け、公害対策基本法や水質汚濁防止法など、環境を守る様々な法律を作ったり、人の健康を保護し生活環境を守る上で維持されることが望ましい基準である水質環境基準を定めたりなど、日本全体で「綺麗な水」を作る取り組みがなされていきました。

私は、日本にこのような歴史があったことを初めて知りました。当時の写真を見ると、普通の河川や海が、白黒の写真でも分かるほど汚れており、公害病にかかった方は痩せて全く元気がない状態でした。もしも法律や基準を出さずに現在まで環境汚染をしたままだったらと思うとぞっとします。約七十年の間に人々は水質改善のために手を尽くしてきました。

矢吹町立矢吹中学校 三年 小川^{おがわ}遥香^{はるか}

した。その結果、今では工場から出た排水は排水処理装置によって処理されます。また自治体では生活排水を下水道などの污水处理施設で処理されています。さらに污水处理場で消毒などを施され、綺麗に生まれ変わった水が、放流されているのです。私は、とてもすごいことだと思います。しかし、そのような設備が十分に整った日本でも水質汚染についての報道をよく見るのはなぜでしょう。

私は、小学校の六年間、毎年家の近くの田んぼの周りで生物調査をしていました。学年が上がっていくにつれてだんだんと観察できる生物の種類が少なくなり、数匹しか採取できない年もありました。当時はなぜ少しか観察できなかったのか、今改めて考えてみると、原因は生活排水の多さにあったのではないかと思います。七十年前の高度経済成長期でも、工場や自治体に課す法律や規定はありましたが、一般の家庭には規定があまりなかったのではないでしょう。それでも公害病などを通じて水質保護の意識が一人一人に広まって水質が改善されてきたのだと

思います。今の私たちは、排水によって汚染された水を本当に見たことがない人がほぼ大半を占めています。そのうえ、私のように日本で水質汚濁の歴史があつたことも知らない人もたくさんいると思います。機械や施設には限界があります。そのことを知らない人がこれからも増え続け、機械や施設に限界が訪れたときも変わらず生活排水を流し続けたら。それは、これまでの水質改善に携わった全ての人と汚染水の被害に遭った全ての生命を無駄にしていることと同じになってしまいます。

水は私たちにとって大切な存在です。ずっと守り続けられてきた日本の綺麗な水を少しも無駄にすることがないように一人一人が身近なところから少しずつ意識を持ち、行動すること、環境、生命、そして人々の思いを守り受け継ぐことができると思います。